

平成 26 年度拠点間連携共同研究（公募研究）の審査経緯

平成 26 年度拠点間連携共同研究（公募研究）は、平成 26 年 4 月 21 日から 5 月 23 日まで公募が行われ、21 件の応募がありました。6 月 6 日より 6 月 19 日の間で拠点間連携共同研究委員による採点がなされ、6 月 26 日から 7 月 3 日の間で拠点間連携共同研究委員会においてメールにて審議がなされ、1 次審査を行いました。

1 次審査は、以下のようにおこなわれました。研究内容の評価では、申請課題の研究内容を拠点間連携共同研究の目的に照らしてふさわしいかどうかの観点をもとに 6 段階で評価を行いました。申請額の妥当性評価では 3 段階で評価を行いました。それらの結果を点数化し、申請課題を平均評点の高い順に並べ、予算総額等を勘案し、今年度は 12 件を採択することにしました。なお、配分額につきましては、評価の順に申請額の 85%～65%の傾斜配分になっています。

1 次審査の結果を地震研究所の共同利用委員会と、防災研究所の共同利用・共同研究拠点委員会に報告し、両委員会が 2 次審査を行い、別紙のとおり決定しました。

以上

地震・火山科学と総合防災学の両共同研究拠点主催シンポジウム（案）

「南海トラフ巨大地震のリスク評価ー地震から災害発生、復興まで一連の流れを知る」

日時： 平成 26 年 10 月 6 日 13:00～18:00 （講演会）

10 月 7 日 10:00～15:00 （分科会，総合討論）

場所： 東京大学地震研究所第 1 会議室 （地震研究所 2 号館 5 階）

主催： 東京大学地震研究所・京都大学防災研究所

共催： 地震・火山噴火予知研究協議会，自然災害研究協議会

平成 25 年 11 月に科学技術・学術審議会が関係大臣に建議した「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について」では、平成 23 年東北地方太平洋地震の発生により、これまでの地震予知研究計画で足らなかったものが多かったことが明らかになりました。それを真摯に反省し、災害の源としての地震現象に焦点を当てて、地震や火山噴火の発生から災害の発生や推移を総合的・体系的に理解し、その知見を防災・減災に生かすための学術研究を推進する方向にも力を入れることにしました。

その一環として、南海トラフで発生が懸念される巨大地震を念頭に、地震の発生から災害発生後の対応まで、巨大地震やそれにとまなう災害やその対応に関するいくつかの研究を、地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点である東京大学地震研究所と自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点である京都大学防災研究所が協力して来年度から参加者募集型共同研究として開始する予定です。この参加者募集型共同研究の具体的な内容や目標を、理学，工学，人文・社会科学の分野から総合的かつ学際的に議論するため、10 月 6～7 日に研究集会を開催します。

10 月 6 日午後の講演会では、統合的リスク評価の基本となる巨大地震の震源過程の多様性、現状の地下構造の不確かさや不均質構造中の波動伝播の複雑さ、それらがもたらす強震動への影響、地盤構造の不整形性・非線形性が与える変動、津波発生の多様性、様々な構造物に対する被害率評価の精度、減災のための新たな災害情報・リスク評価手法、災害情報の発表方法、シミュレーションによる災害評価手法等における現状と問題点を明らかにし、個々の段階の不確かさが最終的な広域的な被害想定、リスク評価に及ぼす影響や、減災のため様々な手段の問題点を、理学，工学，人文・社会科学の各分野の研究者で共有し、巨大地震のリスク評価の精度向上には何が重要かを議論します。

10 月 7 日午前中は、分野毎に分科会を開催して 6 日の講演会を踏まえていくつかの参加者募集型共同研究を企画し、午後の総合討論で平成 27 年度以降重点的に推進すべき研究課題を議論します。

参加は自由です。多方面の分野の多くの方々にこの研究集会にご参加いただき、ご意見やご提案をいただけますよう、ご協力よろしくお願いいたします。なお、10 月 6 日の夜に懇親会を予定しています。異分野交流の場にしたいと思っておりますので、こちらもふるってご参加ください。

10月6日 13:00-18:00 講演会の概要

以下のテーマで数名の方に講演いただき、質疑応答の時間を設けたいと思います。詳しいプログラムは9月中旬にお知らせします。

【案1】

1. コンピューター・サイエンスが拓く地震リスク評価の将来
2. 災害情報発信と復興計画
3. 災害のリスク評価と意思決定
4. 建造物の被害予測モデル
5. 津波のリスク
6. 地盤構造と震動の関係の複雑さ
7. 強震動予測の問題点
8. 地下構造・波動伝播の複雑さ
9. 南海トラフ地震の地震像

【案2】

1. 南海トラフ地震の地震像
2. 地下構造・波動伝播の複雑さ
3. 強震動予測の問題点
4. 地盤構造と震動の関係の複雑さ
5. 津波のリスク
6. 建造物の被害予測モデル
7. 災害のリスク評価と意思決定
8. 災害情報発信と復興計画
9. コンピューター・サイエンスが拓く地震リスク評価の将来

10月7日 10:00-12:30 分科会

上記1～9に対応する分科会に分かれて専門的を視点から、次年度以降に進めるべき研究の方向について意見交換します。

10月7日 13:30-15:00 総合討論

参加者全員が再度一同に会し、前日や分科会での議論を総括し、次年度以降開始する研究について意見交換します。

以上